

1 2月定例所長会見における千野所長挨拶内容

このたびは、当発電所ならびに福島第一原子力発電所1号機における取放水温度差のデータに関する不適切な取り扱いにつきまして、地域の皆さまに多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

今回の件は、他電力会社の火力発電所の事例を踏まえて、自主的に調査を実施したところ、当発電所の1号機と4号機において、

- ・ 復水器出口温度を平均した値が実際よりも低く表示されるようデータを改ざんしたこと、
- ・ そのデータを新潟県へ報告している「温排水等漁業調査結果報告」の一部に引用していたこと、
- ・ これらの状態が現在まで継続していたこと、が確認されたものです。

4年前の不祥事以降、信頼回復に向けた様々な取り組みをしてきたなかで、このような不適切な取り扱いによって、再び地域の皆さまの信頼を損なってしまうような問題が確認されたことについて、私どもとしても重く受け止め、深く反省しており、現在、このような事態が生じた原因の調査や同様な問題がないかの点検を実施しているところです。

また、社長の勝俣からは、「今回このような事態が発生したことを真摯に受け止め、改めて点検を実施するとともに、同様な問題が確認された場合は適切に是正すること。また、発電設備をはじめ、業務を通じて得られたデータは、社会の信頼を得るためのベースとなるもの。いま一度、データの持つ意味合いをしっかりと認識し、日常業務に取り組んで欲しい」と全社員に対して緊急の指示もでています。

調査体制としては、社長が委員長である16年7月設置された「リスク管理委員会」の下部組織に「発電設備における法令手続きおよび検査・計測記録等適正化対策部会」を立ち上げ、さらに、当発電所をはじめ原子力発電設備におけるデータ改ざん問題を受けて、技術系常務を主査とした原子力発電設備に関する対策検討会をその下に設置し、私もメンバーとなって鋭意調査を進めている状況です。調査内容としては、

- ・ 事実関係や原因の調査と再発防止対策はどうか、
- ・ 法律に基づく手続きが適正に行われているか、
- ・ 検査記録や計測記録が適正に処理されているか、

という観点で実施し、それぞれに専任チームを設けて、関係者へのヒアリングや書類の確認を行っているところです。

調査陣には原子力部門とは独立した組織である原子力品質監査部と、原子力の業

務品質を管理する原子力技術・品質安全部が参加し、社内でも原子力部門と異なる部門がチェックして客観性を担保するとともに、社外の弁護士も含めた体制となっています。

経済産業省からは、福島第一1号機の問題については、その事実関係、根本的な原因および再発防止対策を来年1月11日までに報告するように、また、原子力だけでなく、水力、火力も含めた当社の全発電設備において法律に基づく検査に関するデータ処理に改ざんがないかどうかを1月31日までに報告するよう指示されています。

当発電所の問題についても、このような調査体制によって事実関係ならびに、他に同様なことがないかをしっかり調査するとともに、徹底した原因究明を行い、地域の皆さまにご報告してまいります。

12月6日に行われた「地域の会」では、私から地域の方々に直接お詫びを申し上げました。委員の皆さまから大変厳しいご意見をいただき、信頼を損なってしまう事態を招いたことを重く受け止めているところです。

当発電所としては、4年前の不祥事以降、信頼回復のために実践してきた「しない風土」と「させない仕組み」のもとで、4つの約束を目標に掲げ、様々な取り組みを行ってきましたが、今後も、発電所の再生活動や品質保証体制の向上に全所員一丸となって取り組むとともに、その活動を通じて明らかになった不適合事象については、発電所運営の透明性を確保するために積極的に公開してまいります。

海上監視レーダーについて

10月の会見でもお知らせしましたが、発電所周辺の海上監視を強化するために港湾付近に設置した海上監視レーダーは、12月4日に運用を開始しました。当発電所としては、今後も、警備当局と連携をとりながら安全な発電所運営を行ってまいります。

耐震設計審査指針の改定に伴う地質調査について

11月に開催した地域説明会のご意見などを勘案して、発電所の敷地も起震車による地下探査を実施する方針を決めました。調査時期などの詳細は今後詰めてまいります。これにより地域の皆さまから「信頼おける調査だ」と評価いただけるよう取り組んでまいります。

以上

添付)

- 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- プレス公表（運転保守状況）

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成18年12月)

発電所運転状況

平成18年12月14日

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	運転中	第14回 H17.6.14 ~ H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第14回定期検査による停止												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	運転中	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)													
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	運転中	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第9回定期検査による停止												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第9回定期検査中 停止期間:H18.4.9 ~ H18.12.14 現在調整運転中	第8回 H16.8.7 ~ H17.4.20 停止期間 H16.8.7 ~ H17.3.25 (231日) (原子炉起動H17.3.22)	第9回定期検査による停止												[4号機] ・12月14日に発電開始予定。 ・原子炉再循環系配管の補修工事終了。
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 停止期間:H18.11.24 ~	第11回 H17.7.4 ~ H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定期検査による停止												[5号機] ・11月24日から第12回定期検査開始。(お知らせ済み) ・11月29日から12月11日にかけて圧力抑制室の点検を実施し、ゴミ(テープ片)を回収。
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	運転中	第7回 H17.12.10 ~ H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第7回定期検査による停止												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第7回定期検査中 停止期間H18.8.23 ~ H18.12.5 現在調整運転中	第6回 H17.3.1 ~ H17.8.2 停止期間 H17.3.1 ~ H17.6.23 (115日) (原子炉起動H17.6.20)	第7回定期検査による停止												[7号機] ・12月5日に発電開始。(お知らせ済み)

プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

発電所設備利用率(%) (11月末現在)	
11月	68.2%
18年度累計	73.9%
運転開始後累計	77.1%

発電所発電電力量(万kWh) (11月末現在)	
11月	403,187
18年度累計	3,553,261
運転開始後累計	77,087,932

ドラム缶発生量(本) (H18年度第2四半期)	
当期発生本数	930
貯蔵庫累積貯蔵本数	20,324
貯蔵庫保管容量	30,000

使用済燃料貯蔵体数(体) (H18年度第2四半期)	
使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	11,856
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

構内従業員データ(人) (12月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	782	2,453	64%
	刈羽村	73	240	6%
	その他	76	628	14%
	小計	931	3,321	84%
県外		108	720	16%
合計		1,039	4,041	-
		5,080		100%
協力企業社数(社)		480		

「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

来客情報(人) (11月末現在)

	11月	年度累計
地元	908	12,265
県内	1,746	17,942
県外	4,191	27,272
国外	40	350
合計	6,885	57,829

今後の主なスケジュール

予定日	内容
12月16日	そばうち体験教室(き・な・せ)
12月17日	クリスマス レインブック コンサート(カムフィ-)
12月23・24日	サービスホールdeクリスマス
1月11日	次回定例所長会見予定
1月13日	新春餅つき(き・な・せ)
1月18日	骨盤体操(カムフィ-)
1月18・19日	第122回名画鑑賞会(柏崎エネルギーホール)
1月20日	ソーラーメロディーハウス工作教室(カムフィ-)

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	11月6日 11月17日	-	キャスク保管庫（管理区域）におけるごく微量の放射性物質の確認について（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・10月28日、使用済燃料（6号機、228体、約39トンU）を日本原燃株式会社使用済燃料受入れ・貯蔵施設に搬出。その後、キャスク（使用済燃料の輸送容器）保管庫（汚染のおそれのない管理区域）内の放射線測定を実施したところ、11月2日、保管庫内の吊り具から放射線測定器の検出限界（0.29ベクレル/cm²）を上回るごく微量（約0.31ベクレル/cm²）の放射性物質を検出したため、拭き取りにより除染した。検出された放射性物質は、法令で定める管理区域の基準レベル（4ベクレル/cm²）より十分に低い値。 ・原因は、キャスクの出し入れにより、検出限界値未満であった放射性物質が当該吊り具に蓄積され、検出限界値を上回ったものと推定。 ・今後は、キャスク保管庫及び岸壁用の吊り具等について、輸送作業前後にふき取りを実施するとともに、輸送作業後に表面汚染密度測定を実施し、検出限界値未満であることを確認する。 <p>（前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18110601.pdf</p>
	11月9日 11月17日	7号機	作業員の微量な放射性物質の内部取り込みについて（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・11月9日、定期検査中の原子炉建屋4階オペレーティングフロア（管理区域）において11月8日午後原子炉圧力容器上蓋の取付作業を行っていた協力企業作業員（計6名）に対して、ホールボディカウンタ（WBC）による測定を実施した結果、6名のうち5名の作業員に内部取り込みがあることを確認した。 ・その後、13日までに5名全員の測定値が内部取り込みの判断基準値を下回ったため、放射性物質は体外に排泄されたものと考えられる。 ・本来当該作業は、ボルト清掃装置と連動しているナット着脱装置にて行うものであるが、今回の作業では、作業開始後間もなくナット着脱装置が故障したため、手動でナットの取り付けを行っており、この作業に伴って飛散したボルト表面の放射性物質を取り込んだものと考えられる。 ・原因は、手動でナットを取り付ける際の手順が明確になっておらず、作業員は、未清掃のボルトにナットを取り付ける際、マスクを着用していなかったこと、および作業手順の変更時、作業前ミーティングにおいて放射線防護に関する検討を実施していなかったこと。 ・今後、ボルトは確実に清掃することとし、手動でナット取り付けを行う場合は必ず汚染検査を実施し、必要に応じてマスクを着用する旨を工事施工要領書に記載する。また、協力企業の作業班長に、作業手順・工法を変更する場合の作業前ミーティング実施の徹底などを再教育するとともに、放射線監理員に対して放射線管理指示事項の明確化について事例検討を実施することとした。 <p>（前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18110901.pdf</p>

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	11月17日	5号機	原子炉建屋付属棟内（非管理区域）における水道水漏れについて（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・11月16日、原子炉建屋の周囲にある付属棟2階ページング（発電所内の通信機器）用バッテリー室内に水が溜まっていることを協力企業の作業員が発見した。 ・調査の結果、換気空調設備の点検準備作業のため、同棟3階の水道水シンクで水を流したところ、排水配管が詰まっていたために配管内の水が逆流して、同棟2階にある当該室内の水道水シンクから溢れ出たことがわかった。 ・溢れた水の量は約400リットルで、水道水であるため放射性物質は含まれていない。水道水シンクから溢れた水は、回収のうえ、拭き取りによる清掃を実施。 ・当該排水配管については配管清掃等の目詰まり解消作業を継続。水を流す作業については、別の排水ラインを使用することとした。 （前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18111702.pdf
	11月20日	5号機	サービス建屋（非管理区域）における潤滑油漏れについて（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・11月18日、サービス建屋3階空調用冷凍機室（非管理区域）において、パトロール中の当直員が、3台ある冷凍機のうち点検停止中の1台（A）から潤滑油が漏れていることを発見した。 ・発見時に潤滑油の漏えい（漏えい量約100リットル）はすでに止まっており、一部は排水口から回収タンクに流れ込んだが、床面に漏れた分は拭き取りなどにより処理。漏れた潤滑油は放射性物質を含んでいない。 ・当該冷凍機の油タンク内に設置されているポンプの点検用開口部の蓋（直径約28cm）の締め付け部から潤滑油が漏れ出したものと推定しているが、今後、分解点検を行いさらに調査を実施する。 （前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18112001.pdf
	11月27日	5号機	タービン建屋のクレーンからの潤滑油漏れについて（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・定期検査中の11月25日、タービン建屋2階オペレーティングフロアにおいて、タービン点検の準備をしていた協力企業の作業員が、機材搬出入用のクレーン（定格荷重10トン）から潤滑油が漏れていることを発見した。 ・潤滑油は、クレーンの変速機と油抜き用配管との接続部からクレーン下部架台と床面に漏えい（約65リットル）したが、拭き取りなどにより処理。漏れた潤滑油は放射性物質を含んでいない。 ・原因は、当該油抜き用配管がクレーン横の通路にはみ出す形で設置され、配管に若干の曲がりがあることなどから、運搬していた荷物等が当該配管に接触したことにより、変速機と当該配管の接続部分が損傷して潤滑油が漏れたものと推定。 ・当該配管は、通路にはみ出さない長さのものに取り替えを実施した。 （前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18112702.pdf

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	12月1日	3号機	原子炉建屋大物搬入口前（屋外）でのけが人の発生について（区分）	- （前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18120101.pdf